

オハイオ州フィンドレー大学奨学生レポート 11月
サンクスギビング

今月はサンクスギビングがあり、サンクスギビングの休暇中は、友人のケンドルの実家にお招きいただきました。日本ではサンクスギビングは、あまりなじみ深いものではないですが、アメリカでは、家族と時間を共有する為の大事な祝日の一つだそうです。今回は、アメリカの友人の家族達と過ごしたサンクスギビングの休暇中の出来事を報告したいと思います。

ケンドルの家は、フィンドレーから1時間半ほど車で走ったところにあり、野生の動物が多く生息している自然豊かな場所に位置しています。車で家に向かっていく最中、まわりの風景が徐々にのどかな田園風景に変わっていき、フィンドレーとはまた違った雰囲気がそこには広がっていました。

家に到着するとケンドルが出迎えてくれて、その後、ケンドルの両親と対面したのですが、二人は非常にエネルギッシュで初対面と思えないくらい気さくに接してくれました。

家には、見える場所に銃が飾ってありました。また、ケンドル家の裏庭には、射撃練習をする場所もありました。銃は正式な射撃場に行かなければ撃てないと思っていましたが、自宅の庭で銃を撃っても良いのだということに非常に驚き、改めて自分は今、日本ではなくアメリカにいるのだということを実感しました。

それから、ケンドルの親戚の家にお招きいただき、ディナーをご馳走になりました。ターキー（七面鳥）、サラダ、フルーツ、パンプキンパイ等の豪華な料理がテーブルにずらりと並んでいて、バイキング形式でみんな好きなだけお皿に盛って食べます。アメリカのサンクスギビングの週は、「太る」という言葉は禁句だそうです、そういうことは12月になってから気にすればいいのだということを知りました。ターキーを食べながら、陽気なムードのアメリカの家庭で大勢の人達と時間を共有した貴重なサンクスギビングでの出来事は間違いなく将来忘れることのない特別な思い出になりました。

